平成28年度 自己評価【分掌】

A:十分満足である B:ほぼ満足できる C:改善が必要である

	重点目標	具体的取組事項	評価指標(到達したい状況・状態)	評価基準		達成値	評価	反省及び次年度への課題等	関係者評価	
総 務 部	PTA活動の充実	PTA会報等の発行により、保護 者への情報発信を行う。	PTA会報等についての保護者ア ンケートでのA・Bの割合	Α	В	С	78.3%	В	発行回数は減らしたが、カラー印刷で手渡しか郵送となり、保護者に届きやすくなった。	В
				80%	70%	60%				
	広報活動の強化		ホームページに関する保護者ア	Α	В	С			更新講習会は1回実施し、その後は個	
		数回開き、更新回数を増やす。	ンケートでのA・Bの割合	85%	75%	65%	86.8%	Α	別に対応した。今後は更新回数の少ないカテゴリへの働きかけを行う。	Α
教務部	自己管理能力の育成		生徒アンケートで遅刻0に向けて 努力したと回答した生徒・教職員 の割合	Α	В	С			遅刻に対する生徒の意識は年を追	
				90%	80%	70%	96.0%	Α	うごとに高まってきており、さらに皆動という高い目標を目指している。	А
	キャリアプランニングの		1,2年次は今年度取得した資格	Α	В	С	1年58% 2年89% 3年84%		今年度から英検が1年全員受験となり、それにともなって英語科では、 組織的な指導が行われ、成果があ がった。	В
П	推進		数が1つ以上の生徒の割合。3年次は3年間で3つ以上の生徒の割合。	80%	70%	60%		В		
	校内外で積極的に挨拶		校内外で挨拶ができていると答え	Α	В	С		86.0% B	引き続き、レベルの高いすごい挨拶 をすることを目指し、学年集会や全 校集会などで呼びかけていく。	В
生徒	をさせる	させる の挨拶運動を実施。全校集会、 学年会などで呼びかける。	た生徒、教職員の割合。	90%	80%	70%	86.0%			
指導	強化 びか / 導を 行 ながら	びかけ、学期に1回の街頭指導を行うと共に、警察と連携しながら注意・指導をしていく。	交通マナーを意識し、自転車の	Α	В	С			何かあってからでは遅く、命を大切	
部			クロックスを表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を	90%	80%	70%	80.5%	В	にすることの意識付けを警察との連携や各集会で呼びかける。	В
	体系的・計画的な進路指 導体制の構築	進路ガイダンス・進路ミュージカル・基礎カテスト・一般常識課題テスト・CCP・・面接指導(3年生)等は進路決定に役立っている。	に対してA·Bを回答した生徒・教 alive alive A に努め、	Α	В	С			おおむね満足できるが、さらに精選	
進路				に努め、スクラップ&ビルドに心が けたい。	А					
指導	進路検討会を活用した		「進路に関する資料の提供や担任・進路	Α	В	С		5% A	教員評価でも87.8%である。進路検討会は進路決定・生徒理解に必要不可欠なものであると信じている。より多くの参加、会議の活性化に努めたい。	А
部	進路指導	進路決定を促している。	の教員との相談など個人に応じた進路 指導が行われている」に対してA・Bの回 答をした保護者の割合	80%	70%	60%	89.5%			
健康相談部	と適切な対応	健康観察簿、健康診断、諸検査 の結果や日常の相談などから 適切な対応を行う。	教職員アンケートにおける「A」 「B」の割合	Α	В	С			保健室業務は例年通り行われている。また 来室生徒との相談やそれを受けて関係教員	
				80% 70% 60% C への連絡・情報提供も丁 ³ 保護者評価を見ても対応 かったと考える。		ii l				
		教職員アンケートにおける「A」		В	С	T		ケース会議が教科担当者会等に置き換わることが多かった。教育相談委員会の規程の		
		議等の活動を通して適切な対応「B」の割合に努める。	B]の割合 	80%	70%	60%	60.9% C	С	見直しを行い、よりスムーズな連携・支援へ の移行が図れるようにしたい。	

	授業や研究に役立つ資料	出張図書館や図書館ニュースを	教職員アンケートにおける「A」「B」の	Α	В	С				
図書研修部		通じて、図書館の資料を紹介する。	割合。	90%	80%	70%	93.30%	Α	授業での資料の提供を充実させ	A
		る。図書館運営委員会を通じ て、先生方のリクエストに応え							ていきたい。	
	生徒の豊かな感性を育		 「図書館の設備や雰囲気は利用しや	Α	В	С				
	む読書指導を行う。書館二二	書館ニュースを通じて、生徒の	すい」という生徒アンケートの「A」「B」 の割合。		├-	<u> </u>	95.30%	Α	生徒主体の活動がさらに活発化す るように支援していきたい。	А
		読書活動を支援する。		90%	80%	70%				
\vdash	基本的生活習慣を身に着	■ あいさつ、時間厳守について毎日	r職員アンケートにおける「A」「B」の A	Α	В	С				
寮	ける指導を行う。	実施する。	割合。	90%	70%	50%	93.5%	Α	次年度も続くようにしたい	Α
務部	寮内外の環境整備を行う。寮内外の定期的な	トリスタイプ 素内外の定期的な掃除を行う。	 教職員アンケートにおける「A」「B」の	Α	A B C					
山山			割合。	90%	70%	50%	90.0%	Α	次年度も続くようにしたい	Α
	研究活動を推進する	②生徒自らが課題解決学習に	教職員アンケートにおける「A」	哉員アンケートにおける「A A B	С		 事故のない安全で安心な農場が展			
農			「B」の割合。		90%	85%	84.6%	c-	開できるよう展開していきたい。	c-
場場	*** *	積極的に取り組む		95%						
部	環境整備の徹底 ①役割分担の明確化 ②定期的な点検 ③適切な環境整備計画の立		「環境整備」を問うアンケートに対する「教職員」「生徒」のA・Bの回答割合	Α	В	С	88.1% B	ь	きれいな農場をつくることができた。	В
		③適切な環境整備計画の立案		90%	85%	80%		Ь		
	自己管理力の育成 ①時間厳守の徹底 ②授業に相応しい服装指導		「自己評価10、12」を問うアン	Α		実験・実習にふさわしい服装は概ねでき				
植		②授業に相応しい服装指導	ケートに対する「生徒」のA・Bの 回答割合	0.50/	750/	0.50/		②99.3% (平均) 97.6%	ているが、教室移動の時間厳守やチャイム前着席は継続した指導が必要である。	Α
物 科				85%	75%	65%	97.6%			
学	②資格取得に向けての指導	①課題研究授業の充実	「自己評価16」「学校評価6」を問うアンケートに対する「生徒」のA・Bの回答割合	Α	В	С	(1)89.9% ②67.1% (平均) 78.5%		課題研究への意識は高くなってきていると思われるが、資格取得については他科のように 独自の資格が見当たらないため農業技術検	В
科		②資格取得に向けての指導		85%	75%	65%		В		
				00/0	70/0	00%		定を中心に継続した指導を図りたい。		
	自己管理力の育成 ①時間厳守の徹底 ②授業に相応しい服装指導		「自己評価10、12」を問うアン ケートに対する「生徒」のA・Bの	Α	В	С	①92. 1% ②97. 4%	大半の生徒が意識しているが、時間厳守と は言えない場面や、着こなし(特にヘルメット の着用)が十分でない生徒がいる。今後とも	А	
環境		1回答割合	85%	75%	65%	(平均) 94. 7%	А			
科	力と出い次劫の本代						94. 7%		継続的に指導する必要がある。	
学	自ら学ぶ姿勢の育成 ①課題研究授業の充実 ②資格取得に向けての指導	①課題研究授業の充実 ②資格取得に向けての指導	「自己評価16」「学校評価6」を問 うアンケートに対する「生徒」のA・	Α	В	С	①87. 2% ②64. 9%	3年生の評価が高い反面、下級生の資格取得について考え る必要がある。課題研究については内容を高めていくことも だが、科として内容の吟味や実施方法の検討が必要であ る。	В	
科		Bの回答割合	85%	75%	65%	(平均) 76. 0%	В			
食品料	自己管理力の育成 ①時間厳守の徹底 ②授業に相応しい服装指導	 ①時間厳守の徹底	 「自己評価10、12」を問うアン	Α	В	С	1)92.9%	座学・実験・実習にふさわしい服装は概 わできているが、数室移動の時間厳守	A	
		ケートに対する「生徒」のA・Bの 回答割合			 	299.1%	座学・実験・実習にふさわしい服装は A ねできているが、教室移動の時間厳 は継続した指導が必要である。			
			85%	75%	65%	(平均) 96.0%				
	自ら学ぶ姿勢の育成 ①課題研究授業の充実 ②資格取得に向けての指導	▲ ①課題研究授業の充実	取得に向けての指導 うアンケートに対する「生徒」のA・	Α	В	С	①91.1% ②64.6%	依然として、プロジェクト活動に対する充実度		
学 科				_ ^				В	は高いが、資格取得に対する達成感が低	В
1 17		Bの回答割合	85%	75%	65%	(平均) 77.8%	い。学科関連の資格指導に皆が努力しているが、一層教員側の指導強化を図りたい。			
		I					77.070			

		I a								
± 4	自己管理力の育成	①時間厳守の徹底 ②授業に相応しい服装指導	「自己評価10、12」を問うアン ケートに対する「生徒」のA・Bの	Α	В	С	①98.1% ②100%		総合実習には10分前に集合し、教室移動もすみやかにでき ている。実習等に対する服装もおおむね良好であるが実習	
動物科学科		②技术12相心UU·加农旧等	回答割合	85%	75%	65%	(平均) 99.1%	Α	時に髪を結ぶなど細かな点が徹底できていない面もり指導したい。	Α
	自ら学ぶ姿勢の育成	①課題研究授業の充実	「自己評価16」「学校評価6」を問	Α	В	С	①90.3% ②62.5%		プロジェクト活動に対する意欲は高く県大会、中国大会など	
		②資格取得に向けての指導	うアンケートに対する「生徒」のA・Bの回答割合	85%	75%	65%	(平均) 76.4%	В	への出場を目標に活動している。資格の面に対しては動物に関連した資格が3年次にしかなく新しい資格の導入も必要である。	В
	目標に向けて行動を起こ す生徒を育成する	HR、学習活動等での学校生活、学 習指導を行う	「自己評価2・4・9・10・18」につ いてA,Bの割合	A	В	С			家庭学習の週間に取り組む生徒が 少なく平素からの家庭学習に対する	_
 — 年				80%	70%	60%	78.90%	В	意識向上が必要と考える。日々の学習への取り組む意識は高い。	В
部	へ広める生徒の育成 取り組み		「自己評価7・8」についてA,Bの 割合	A B C	С	81.30%		学習に目標を立て、マナトレを中心 に学習に取り組み、目標を設定する	Α	
				80%	70%	60%	01.00%	^	ことを今後も継続させたい。	
	学校生活に前向きに取 り組む生徒を育成	各クラスや学年集会(年間:5 回実施)での指導	「自己評価9~15」を問うアン	Α	В	С			話しを聞く、あいさつをする、時間を守る	
二年			ケートに対する「生徒」のA・Bの 割合	80%	70%	60%	96.8%	А	など、基本的な生活習慣を向上させよう という意識はあるように思える。さらに、 進路実現も意識を高め、社会で通用す る常識を身に付けさせる。	Α
部	ぶ生徒の育成級	級)への取り組み		Α	В	С		1	国語99.6%、英語90.9%、数学78.7%で	
				80%	70%	60%	89.7%	Α	あった。生徒は比較的、まじめに取り組んでおり、さらに意識を高め基 礎学力を高めるように指導したい。	Α
	範となる生活態度を実 践できる生徒 (生徒アンケート9~15)を朝象 礼時や学年集会にて話をし、 徹底させる。	学校生活だけでなく、今後の生		Α	В	C			朝終礼時や学年集会にて話をし、	
튼		回答割合	90%	80%	70%	96.0% A	Α	挨拶、遅刻ゼロ、校則(頭髪・服装等)、掃除、交通マナーの項目について昨年の評価を上回り、徹底させることができた。課題としては、授業準備や整理整頓を今後の課題とし	А	
年部			進路決定の割合	Α	В	С			主に3年学年部と進路指導部、各学	
пh	の収集や分析を主体的 に行い、進路決定がで きる生徒	参加し、進んで進路実現に努力する。 また、週に1度の学年会にて全体・個人に対してのミーティングを行う。(進路指導部長も毎回参加する)		100%	98%	96%	99.2%	В	科と連携し、3年生の進路を確定することができた。週に1度の学年会では進路指導主任も参加し、スムーズに連携が取れた。学年集会も行事毎(6回程度)に行い、チームワークと生徒理解にも繋がった。	В